微笑みを声と手にのせて

猪平　眞理

赤ちゃんの笑顔はあどけなく何ともかわいいもので強く人の心をとらえます。赤ちゃんの最初の微笑みは〝神笑い〟などといわれる反射的なものですが、お母さんの温かくて優しい微笑みとのやりとりで母親や親しい人の顔が識別されていきます。大人を皆幸せな気持ちに酔わせてくれる微笑みは視覚によって伝達される表情と思われます。ところが、もし生まれつき目の不自由な赤ちゃんだったら笑顔はどうなるのでしょう。

結論からいえば目の見えない赤ちゃんも、お母さんにはとっておきのとてもかわいい笑顔を見せてくれます。それは格別にいとおしい笑顔に感じられます。通常、赤ちゃんは人の顔形で識別して母親や親しい人に特別の微笑をするのですが、見えない赤ちゃんのそれは母の声によって選択されて引き起こされる（S.Fraiberg 1975）という研究があり、盲幼

児の声によって引き起こされる微笑は晴眼児と同年代である（P.Wolff 1963）とも証明されているところです。また、見ることのできない子どもは母親や父親、新しく出会う人の顔を触り探って親しい人と見知らぬ人とを区別し、親しい人と分かればこぼれるような笑顔を見せるのです。健常児の手の使い方、巧みさの促進がすべて視覚であることに比べて、盲幼児の手の使用は人の適応行動の一つといえます。このような目を代行する諸感覚の働きを、成長した見えない人の記述から垣間見てみます。

私の先生　　小五年　女児

きれい好きな先生
　教室へ入ってくると　いいにおいがする
先生はおしゃれかな
　声のひびきで　今日のお天気がわかる
高い音　低い音
　階段をのぼってくる先生の足音
かけ上がってくるとき
　特徴のある上ばきのひびき
　　先生は今日もお元気らしい
冗談をいって　みんなを笑わせる
　ほがらかそうな先生
でもときどきじっと考え込む先生
　声と足音で私にはそれがわかるような気がする

また、触感覚による観察が見事な様は長棟（ながむね）まお氏の鉈（なた）彫り観音の鑑賞に表れています。

《……息をのむほど美しいノミ跡が、衣全体をびっしりと覆い尽くしていたのである。まるで魔法の指がスルスルと無駄をこそげすり切っていったかのような、その小さな面の連なり、そしてその面と面とをつないで、一見、縦横無尽と表現したくなるような不思議な規則性を持ちながら、伸びやかに満ち広がっている微細な円やかさに、私は心の底から驚嘆せざるを得なかった。……》（『手は何のため

にあるか』風人社）より。

人間の可能性はすばらしいものだと思います。そしてある面では障害と言われるものも別な場合には特質となる大変新鮮な価値を生みます。この特質に基づく豊かな表現は見えない人達が多くの人や物に出会い、温かな心の交流をし、長い期間をかけて磨き上げた賜物でしょう。それは目の見える者が気づかない貴重な情報として私共の心に響きます。

実は、このように目の代行をする感覚を働かせることのできる見えない赤ちゃんは満たされた幸せな赤ちゃん時代を送りにくいのです。晴眼児が母の顔を認識するのは数え切れないほど母親を見て喜ぶことによって可能となります。したがって盲児にとってもお母さんの明るくて温かい声かけや歌、リズム、心地よい抱っこ、スキンシップ、くすぐり、揺さぶりなどを、見ることに匹敵するほど繰り返し受け、それらが快さや喜びと結びついた経験として積み重ねられなくてはなりません。しかし、目の見えない赤ちゃんはお母さんの方に顔を向けたり、じっと見つめたり、微笑むなどの視覚的サインを送ることができません。つまり、見えない赤ちゃんの表情には感動が表れず、暗そうで、お母さんが赤ちゃんに声をかけたり、抱き上げて愛撫したりする動機を誘い出すことができず、ともすると気が滅入るような気分を伝えてしまいます。そうなるとお母さんの顔には笑顔も少なくなり、声も弱々しいものとなって、本来赤ちゃんは甲高い明るい声の方に反応しやすいといわれ、見えない赤ちゃんには外界の情報をキャッチする大切な受信機である耳に届きにくくなってしまいます。気づかないうちに悪循環を引き

起こしてしまうのです。

一方、我が子の目の障害を宣告された後の、両親の苦しみは大変深いものです。ある時期は子どもの将来を悲観し育児意欲をなくしたり、わずかの望みを捨てきれずに病院巡りをする心配と疲労の日々ともなって、特に子どもの気持ちを受け止める心の余裕が持てなくなります。お母さんの気持ちが落ち込んでいるときは、声も低くか細く、働きかけが消極的になりがちです。これが早期の育児支援が必要とされる理由です。私はいつも「お母さんは朗らかな弾んだ声で音声多重に語りかけて欲しいの」とか、「お母さんの温もりを手足や身体でたっぷり感じていたいの」という赤ちゃんからのメッセージを伝えています。

近頃、教育相談で出会うお母さん方は以前と違い、ずいぶん明るくなりました。しかし、その心の内は「今までの価値観を全部ひっくり返されちゃったんですから」などとつぶやかれるように、この悲しみと苦悩から抜け出るには我が子の障害の事実をあるがままに受け入れることにしかないことに至る、親御さんの長く厳しい心の葛藤が推測されるのです。

ここには津守真先生がこのところよく書いておられる、ピープルファースト（人間最優先）運動の推進が強く望まれるところです。どんな人もそれぞれが大切な社会の構成員として尊重され、その人らしく快適に生活でき、親御さんが苦しまなくてもよい世の中にしていかねばなりません。このところ日本は福祉のレベルアップがなされたと讃えられる面もありますが、人の心が育っていないと思われます。例えば、知り合いのバイオリニスト（盲人）は一年の半分をロンドンに住んでいますが、それはロンドンが障害を気にせず暮らしやすいからで、後の半分は日本で、これは稼ぐには有利（？）と聞きます。また、アメリカのマンハッタンで二十年も一人暮らしをしている懇意の日本人盲女性は、カウンセラー

をしながら盲聾者のボランティアに励み、のびのびできているといいます。日本の福祉はまだ人々の心にしみ込んだものではないのでしょう。社会的に弱者といわれる人や取り巻く人達とはもっと多くの笑顔が交わし合えるよう願うものです。

（宮城教育大学）

理想的でなくてもいい、多少でも笑えれば

土屋　賢二

理想的なスピーチの条件は何だろうか。わたしは次の項目をできるだけ多く満たすようなスピーチが理想的なスピーチだと思う。

① 人々に感動を与える
② 人々に教訓を与える
③ 人々に楽しさを与える